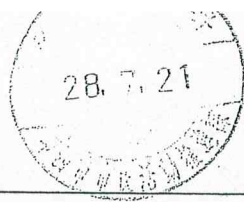


(提案書 様式①-2)



協働の機会提案書(継続提案用)

平成28年7月21日

印西市長 板倉 正直様

(登録者) 登録番号 17-002

名称 NPO法人小林住みよいまちづくり会

所在地 印西市小林北2-9 コスモプラザ 2階

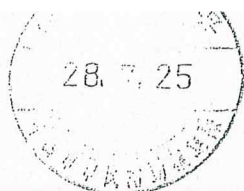
代表者職氏名 理事長 高橋 誠

連絡先 0476-97-2101

企画提案型協働事業を、下記のとおり提案します。

提案事業名	道作古墳群歴史広場の維持管理事業
現状・課題 (前年度の実施を踏 まえた課題)	維持管理業務の活動上の問題点は特にはないが、地域の皆様が散歩の途中、休日の憩いの場として、いかに気楽に立ち寄って頂けるか、そして景観上も素晴らしいと思って頂けるよう更に美しい広場にする余地がある。更に、安全歩行の点で広場までの導入路の整備を図っていく必要があると考えている。
提案理由	11年以上にわたる道作古墳群の草刈りの実績、広場に近いという地の利を活かし、きめの細かい維持管理を今後も継続したい。特に、広場全体、導入路の整備を更に進め、より多くの皆様に訪れ易く、愛される歴史スポットになるよう努力し変えていきたい。
提案内容 (前年度の実施を踏 まえた改善内容)	前年度の業務(墳墓及び広場の草刈り、樹木除伐、落葉かき、機材管理、文化財普及イベント、市民の声を聞くためのアンケート調査、HP・機関誌などによる広宣活動)を継続する。新たに、アンケート結果から出た意見等を反映し、広場周りの土手への植栽を行い景観上の向上も図ることとする。
貴団体の特性、協働 で実施するメリット	11年間道作古墳の草刈りを実施してきており、メンバーが古墳群に比較的近いところに居住しているため、日常の監視、維持管理業務がし易い。また、機材、イベント設備も従来からの各種ボランティア活動のため所有、準備しており、即応性・順応性が高い。更に、メンバーの人的資源が多彩、豊富であり知識的、技術的な有効活用ができていると考えている。
継続実施により 得られる効果 (自由提案型は今後の 展望も記入)	見違えるような広場になったという多くの住民からの評価を得るとともに、アンケート結果でもあるようにこの地域の「歴史」を再認識してもらっていると感じている。日々の散策にも利用している方々が多くなりつつある現在、周辺からの導入路の整備、景観向上、歴史認識の啓蒙を更に進めたい。

(提案書 様式①-2)



協働の機会提案書(継続提案用)

平成28年7月25日

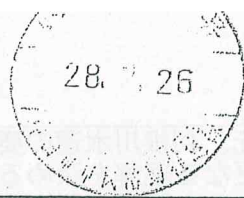
印西市長 板倉 正直 様

(登録者) 登録番号 20-001
 名称 NPO法人 エコネットちば
 所在地 印西市竹袋72
 代表者職氏名 理事長 齊藤 敏男
 連絡先 0476-42-4741

企画提案型協働事業を、下記のとおり提案します。

提案事業名	竹袋調整池と周辺地域の維持管理事業
現状・課題 (前年度の実施を踏 まえた課題)	ひょうたん島池(竹袋調整池)広場は、四季の花と景観を楽しみにウォーキングや癒しを求めて訪れる人々が年ごとに増加している。 コスモスふれあいまつりで、地域交流の場となった竹袋調整池と周辺地域の景観と環境を保全するため、継続した維持管理が必要である。
提案理由	市の水生公園構想により整備された竹袋調整池と周辺地域は景観に恵まれた水辺の場であり、花を求めて訪れる人々が年々ふえている。四季の花、飛来する野鳥、鳥のさえずりを楽しめる環境を維持して、市民にふれあいの場と癒しの空間を提供する。
提案内容 (前年度の実施を踏 まえた改善内容)	花畑と遊歩道沿いに四季の花植え、雑草の繁茂抑制、ごみ清掃を実施して、快適な景観維持と環境保全。 1. 花畑の整備 2. 定期的な草刈 3. 日常随時のごみ清掃
貴団体の特性、協働 で実施するメリット	エコネットちばは地元で活動するNPOで地域住民、地元町内会・商店会、学校や他市民活動団体とも協力して、花畑づくりや地域まつり(コスモスふれあいまつり)を実施してきた。この地域の維持管理を行政との協働事業で実施することで住民の期待と関心がたかまる。
継続実施により 得られる効果 (自由提案型は今後の 展望も記入)	協働事業に提案、8年目を実施中である。継続経験することで花畑の整備も充実してきた。訪れる人々から感謝応援の声とともに要望意見を参考にして工夫できる。今後はひょうたん島池広場を、誰もが健康で元気に暮らせる健康増進に利用できる場にしていきたい。

(提案書 様式①)



協働の機会提案書(継続用)

2016年 7月 26日

印西市長 板倉 正直 様

(登録者) 登録番号 23 — 004

名称 木下まち育て塾

所在地 印西市木下

代表者 伊藤 哲之

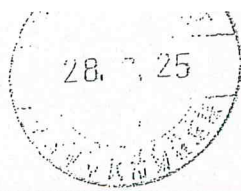
連絡先

企画提案型協働事業を、下記のとおり提案します。

提案事業名	印西市木下地区歴史講座—木下河岸から小網町行徳河岸へ、市民と学ぶ江戸・東京への道、木下街道—
現状・課題 (前年度の実施を踏 まえた課題)	<p>(1)「寺子屋吉岡」は、平成23年10月30日に開講した市民向け歴史講座である。また、木下の歴史を学ぶと共に完全リニューアルなった吉岡家土蔵(明治24年建築)という、木下の歴史を今に伝える歴史的建造物の保存・活用の一環でもある。平成24年度より印西市との協働事業となり、この間、100名以上の卒業生を送り出してきた。更には広く市民向け歴史講演会、バスツアー等を併せて開催し、千葉NT新住民をはじめとする市民の故郷意識の醸成に努めてきた。とりわけ近年の講演会、ツアーは極めて盛況であり、この中には少なからず卒業生が含まれている。</p> <p>(2)今回は内容及び講師たる塾生も5年という一区切りの段階に至っている点に鑑み、内容等を刷新しつつ、吉岡まちかど博物館にての学び、吉岡まちかど博物館という歴史的建造物の保存・活用を継続していくものとする。</p> <p>(3)印西市の人口は、平成28年4月末現在は95,947人(内千葉NT居住者57,573人・60%)、寺子屋吉岡を市との協働事業とした平成24年同時期は92,179人(52,471人・57%)である。4年間に全体で3,786人、4%の人口増を見たが、NT地区は5,102人、10%増、NT地区外は逆に1,334人、3%の減となっており、この傾向は今後も続くものと思料。これら新住民へ地域の歴史を通しての故郷意識の醸成が必要なのである。</p> <p>(4)微力とは言え、印西市の基本計画にある「地域のもつ可能性を活かした魅力あるまちをつくる」及び「健やかな心と体を育み未来を拓く、まちをつくる」に対し、当塾及び印西市が継続して行う必要性が一層求められている。</p>
提案理由	<p>(1)明治14年の次の新聞記事は当時の木下の占める位置が判明する興味深いものである。「(前略)茨城縣其他銚子小見川近邊の人は必ず前日瀧船に乗り(利根川通ひの川蒸氣船十艘余あり木下へ大概上陸)其夜木下へ上陸同所へ一泊して翌日歩行すること七里にして行徳新宿より亦々瀧船に乗り其日太陽ある中に出京するを得(後略)」(『千葉公報』明治14年4月19日)と述べ、利根川水運全盛期のこの時期、木下が下利根川並びに霞ヶ浦及び北浦沿岸諸都市と東京を結ぶ交通結節点であり、行き交う人々が多かった木下及び木下街道の繁昌振りをよく伝えている。</p> <p>(2)上記記事は、木下の歴史を理解するには利根川と江戸川を繋ぐ連水陸路たる木下街道、下利根川水運の歴史を学ぶ必要性を示唆している。木下の性格は純粹交通集落であり、街道と水運により諸都市と繋がることにより生業をたててきたという大きな特色がある。</p> <p>(3)今回は上記により木下河岸の歴史を市外から見ることにより、木下への新たな視点を得るべく市民と共に木下河岸から江戸・東京への道、木下街道及び行徳航路へと視野を拓げ、一層の理解を得ることを意図する。</p>

<p>提案内容 (前年度の実施を踏 まえた改善内容)</p>	<p>寺子屋吉岡は、この間、地元、利根川水運の要衝、木下を中心に学んできた。今回は、木下について更なる理解を深めるべく、木下街道及び行徳航路に焦点をあて「木下河岸から小網町行徳河岸へ—市民と学ぶ江戸・東京への道、木下街道—」と題し</p> <p>①沿道、沿川関係 8 市区 (印西市、白井市、鎌ヶ谷市、船橋市、市川市、江戸川区、江東区、中央区) の学芸員又は研究者の方々から吉岡まちかど博物館にて木下街道、行徳航路について学び、木下、木下街道への理解を深める。</p> <p>②木下街道、行徳航路に係る講演会を広く市民向けに開催する、又は行徳航路を体感するために市民と共に小名木川クルーズ等を行う。</p> <p>③木下街道約 36 km を歩き、木下街道を体感する。</p> <p>④沿道、沿川の博物館を訪問し、更に理解を深め、交流する。</p> <p>⑤市民団体の活動ならではのものとして、沿道、沿川の市民団体と相互に交流し、木下へ誘う。(木下、木下河岸を知ってもらい、来街者を増やす)</p> <p>⑥寺子屋卒業生、受講者、木下まち育て塾及び印西市と共催により、平成 31 年度を目途に企画展「市民による木下街道展 (仮称)」の開催を意図し、埋もれた歴史に光をあてる市民を育成し、生涯学習のきっかけを提供する。資料集、図録の刊行も視野に入れる。以上から印西市の生涯学習機能を補完する。</p>
<p>貴団体の特性、協働 で実施するメリット</p>	<p>(1)木下まち育て塾は「志民」の集まりである。「志民」とは「文句ばかり言って何もしない「私民」でもなく、カヤの外で知らないふりをし続ける「死民」でもなく、自己責任で地域に積極的に働きかけ、自らも負担するココロザシある「志民」。そうした志民を集積していくことこそ、次世代へ地域の輝きを残していく方法だ」(「志民連いちのみや」)に拠っている。</p> <p>木下まち育て塾は、江戸期から明治期にかけ利根川水運で繁栄した木下河岸を中心に、今ではやや元気のない、印西市の中心市街地である木下・六軒を「何とか元気にしたい」を掲げ、具体的には</p> <p>①往時の面影を今に伝える蔵・町屋の保存と活用</p> <p>②地域への愛着と誇りを醸成する歴史の調査・研究、掘起こし</p> <p>③活性化へ繋ぐ市民ウォーク、市民公開講座等イベントの開催等を行っている 30 代から 70 代のサラリーマン、主婦等多様な市民からなる平成 15 年 3 月に結成したまちづくり市民団体である。前身は平成 13 年 10 月、印西市主催の「木下まち育て塾」。14 年 8 月の解散後、有志が「志」と「名」を継承した。当塾のこれまでの実績は木下河岸の歴史紹介を兼ねた『吉岡まちかど博物館開館 10 周年記念誌』(平成 26 年)、吉岡まちかど博物館の改修の技術史ともいえる『蔵 吉岡まちかど博物館 10 年史 2004~2014』(平成 27 年)を参照されたい。</p> <p>(2)協働のメリットとして、印西市という行政のみでは発想、行動に限界があるが、木下まち育て塾という多様な市民からなる市民団体との協働により、より大きな成果が得られる。一方、木下まち育て塾は、一弱小市民団体であり、今回の如く多数の公共団体と連携するイベントの円滑な開催は困難である。印西市との協働はその点を大きく補完し、円滑に企画が実施でき、市民にもメリットがある。</p>
<p>継続実施により 得られる効果及び今 後の展望</p>	<p>木下が銚田、小川等茨城県の霞ヶ浦及び北浦縁並びに銚子及び佐原等下利根川の諸都市から東京への交通結節点であったことなど現在では想像すら困難である。街道と水運で繋がる木下を理解するにはこれらを総合的に学ぶ必要がある。これらを学ぶことにより木下、木下河岸へ新たな光を当てることができ、一層の理解が深まるものと思料する。今回は、先ず木下に繋がる木下街道、行徳航路を体系的に学ぶこととする。</p> <p>将来的には今回提案の木下街道から更に、水運で繋がる木下に焦点を当て、霞ヶ浦、北浦縁の茨城県及び佐原、銚子等千葉県等の諸都市との繋がりの中から木下、木下河岸を学んでいく構想を温めていきたい。</p> <p>上記の企画は木下街道、行徳航路、下利根川、霞ヶ浦水運の歴史を学ぶだけではなく、これら諸都市の市民、市民団体との交流、更にはこれらの学習を契機に木下、木下河岸の歴史を研究する市民のきっかけともなるものである。まちづくりは居住地への愛着と誇りなくしてはなしえないものであり、愛着と誇りは先ず地域の、先人の歴史を知ることである。今回の企画提案が上記の実現に寄与したいと考える。</p>

(提案書 様式①-1)



協働の機会提案書(アイデア提案用)

2016年 7月25日

印西市長 板倉 正直 様

(登録者) 登録番号 28 - 004
 名称 里地里山保全ねっと
 所在地 印西市舞姫
 代表者職氏名^{代表} 鈴木 崇史
 連絡先

企画提案型協働事業を、下記のとおり提案します。

提案事業名	荒れた里山の整備事業
現状・課題 (指定テーマ型の場合 はテーマ名のみ記入)	印西市には豊かな里山環境が多く残っている。しかし、手入れされず放置されているため、荒れた竹林が広がり道路の通行の妨げになったり、ゴミの不法投棄場所となったりしている。さらに、里山の所有者は高齢化し、境界があいまいとなっており、手入れの相談をしたくても所有者と連絡が困難な場合もある。何もせず、このまま放置をすると、子どもたちの世代まで豊かな里山を残すことができない。
提案理由	里山の所有者と境界を明確にし、荒れている里山の保全活動を進めていく必要がある。
提案内容 (予算の概算も記入)	市内で整備が必要な里山をリストアップし、その中で優先順位をつけ整備をしていく。必要経費は、事業の詳細を協議後調整させて頂きたい。
貴団体の特性、協働 で実施するメリット (提案者が事業実施できる能 力や有利なアピールポイント)	私たちは、千葉県内で山林の整備を中心に取り組んでいる団体である。森林組合や林業の事業体、市内の環境系団体とのネットワークをフルに活用し、様々な形で連携・協力を進めることができる。
事業実施により 得られる効果 (自由提案型は今後の 展望も記入)	里山が整備されることで、道路の通行上の支障が減り、またゴミの不法投棄が減る。またイノシシなど鳥獣被害を減らすことができる。 今後は里山整備の際に出る材の有効活用方法について検討していきたい。また市民に山への親しみを持ってもらえるよう散策コースの整備などを行っていきたい。

(提案書 様式①-1)

協働の機会提案書(アイデア提案用)

28年 7月 25日

印西市長

様

(登録者) 登録番号 28 - 005

名称 ALIpro

所在地 印西市武西学園台

代表者職氏名 代表 木村 憲
連絡先

企画提案型協働事業を、下記のとおり提案します。

提案事業名	地域高齢者への身体活動増進プログラムの提供
現状・課題 (指定テーマ型の場合 はテーマ名のみ記入)	超高齢化社会における持続可能な社会を実現するため、高齢者の健康寿命の延伸は重要課題である。厚生労働省「健康日本 21」の身体活動指針では、健康維持のために、少なくとも1日40分以上の日常的身体活動を習慣化する必要性が提示されている。
提案理由	運動習慣のある高齢者は地域の30%程度とされ、本当に必要とされる高齢者(例えば、運動習慣なし、虚弱度の高い)は約70%近く潜在していると言われる。これらの高齢者への支援が急務と言える。
提案内容 (予算の概算も記入)	本団体 ALIpro は「身体活動増進プログラムの地域高齢者への提供」を協働事業として提案する。これは、運動習慣のない地域高齢者の日常的な身体活動(散歩、買い物、家事など)の増加を促す取り組みである。必要経費は120万円程度で見込んでいる。
貴団体の特性、協働 で実施するメリット (提案者が事業実施できる能 力や有利なアピールポイント)	身体活動増進プログラムは、歩数計と情報インフラを利用することにより地域高齢者の身体活動(歩数計)データを一限管理する。これにより、身体活動の履歴や達成状況の効率的な確認(励まし)が可能となり、他者との情報共有(見守り)が実現する。本プログラムは、東京電機大学工学部(スポーツ健康科学研究室)との連携により発案された独創的な取り組みであり、その効果も確認されている。
事業実施により 得られる効果 (自由提案型は今後の 展望も記入)	本活動を地域施設(コミセンなど)に展開することで、より多くの高齢者に支援を提供できる。本活動を通して高齢者間の見守りや共助関係の醸成を促し、地域高齢者主体の自立的なプログラム運用を目指す。身体機能測定を毎年1回実施し効果の検証を行う。本協働事業が健康長寿延伸に貢献する先駆的な事業モデルとなることが期待される。

(提案書 様式①-1)

協働の機会提案書(アイデア提案用)

2016年 7月 25日

印西市長

様

(登録者) 登録番号 28 — 003

名称 エンディングサポート風

所在地 印西市木刈

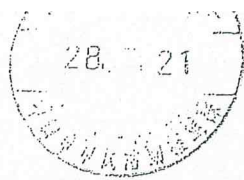
代表者職氏名代表 山口 万理子

連絡先

企画提案型協働事業を、下記のとおり提案します。

提案事業名	印西市エンディングノートの作成と配布
現状・課題 (指定テーマ型の場合 はテーマ名のみ記入)	少子高齢化による人口動態の変化、核家族化による住環境の変化等、社会構造はめまぐるしく変化しており、2025年には超高齢社会はピークに達すると言われる。しかし、従来であれば地域社会や親族で対応されてきたエンディング期の諸問題への対応も、本人や限られた家族のみで対応しなければならない事態になり、今までにない新たな対応が求められている。
提案理由	終活とは「これからの人生をよりよく生きるため」と「残された人への心遣い」の2つの柱があると考え。老いたり病気になったりする前に自分の考えをまとめておくことにより、不安が解消し、さらに遺された人への意志表示と情報提供を可能するために、また家族とこれからについての話し合うきっかけとして「エンディングノート」を利用してほしいと考える。
提案内容 (予算の概算も記入)	エンディングノート本体と、関連する市の担当窓口、各種団体の連絡先や利用法をまとめた2部構成とし、配布は高齢者世帯を対象とする。内容をまとめるにあたり、市民の参加者を募り、とりまとめは当会が行うものとする。行政側には関連支援業務情報の一元管理と提供を期待している。
貴団体の特性、協働で 実施するメリット (提案者が事業実施で きる能力や有利なアピ ールポイント)	当会は葬儀サポートや事前相談を行っており、エンディングに関連の講演会、学習会、見学会などの実績がある。エンディングノート作成・販売および講習も実績があり、直接に市民の意見や希望に接するチャンスもあったので、これまでの経験を生かし、印西市に特化した、印西市らしいエンディングノートを作り上げることができると考えている。
事業実施により 得られる効果 (自由提案型は今後の 展望も記入)	エンディングノートはこれまでの人生を振り返り、整理することにより、これからの人生で何をなすべきかを考えるきっかけになると同時に、万一の場合に備えて伝えておくべき情報やメッセージは、残された家族の負担を軽減することができる。また、高齢者とその家族がエンディングノートをもとに話し合いをする場を設け理解を深め合うこともできる。

(提案書 様式①-1)



協働の機会提案書(アイデア提案用)

H28 年 7月 21日

印西市長 板倉 正直 様

(登録者) 登録番号 28 - 002
 名称 勇気づけサークルでこぼこピース
 所在地 印西市西の原
 代表者職氏名代表 北村 倫子
 連絡先

企画提案型協働事業を、下記のとおり提案します。

<p>提案事業名</p>	<p>アドラー心理学による「勇気づけコミュニケーション」のすすめ</p>
<p>現状・課題 (指定テーマ型の場合 はテーマ名のみ記入)</p>	<p>男女共同参画に関わる啓発事業の実施</p>
<p>提案理由</p>	<p>男女参画社会の最小単位は家族である。夫婦が 尊敬しあい、認めあ い、よい関係を築くことは、子どもの成長にも影響を与える。「人生の困難なもの ほとんどは、対人関係の中にある」と考えるアドラー心理学を知ること、男女を 問わず一人ひとりの人権と多様な生き方を尊重するための啓発として最適と考える。</p>
<p>提案内容 (予算の概算も記入)</p>	<p>子育て世代は、夫婦のあり方が子どもにも影響を与えるため、自分に自信を 失うことも多い。そこで 外部講師による講演会「アドラー心理学による 勇気づけの子育て(仮)」を1回と 内部講師による「勇気づけELM」講座を 3時間×3回の連続講座として開講。 予算は約15万円。</p>
<p>貴団体の特性、協働 で実施するメリット (提案者が事業実施できる能 力や有利なアピールポイント)</p>	<p>勇気づけでこぼこピースは、2013年6月より、毎月1回(8月は除く)勇気づけ 勉強会を開講し、2016年7月までに 延べ152名が参加。 会員数は少ないが、外部講師とのパイプもあり、新たな視点での 講座内容により、参加者の増加につながる。</p>
<p>事業実施により 得られる効果 (自由提案型は今後の 展望も記入)</p>	<p>男女を問わず 協働することへの意識の向上。 一人ひとりの人権と多様な生き方を尊重するためのきっかけをつくる。 男女参画に関する 問題に対して 解決につながる気づきを得る。</p>